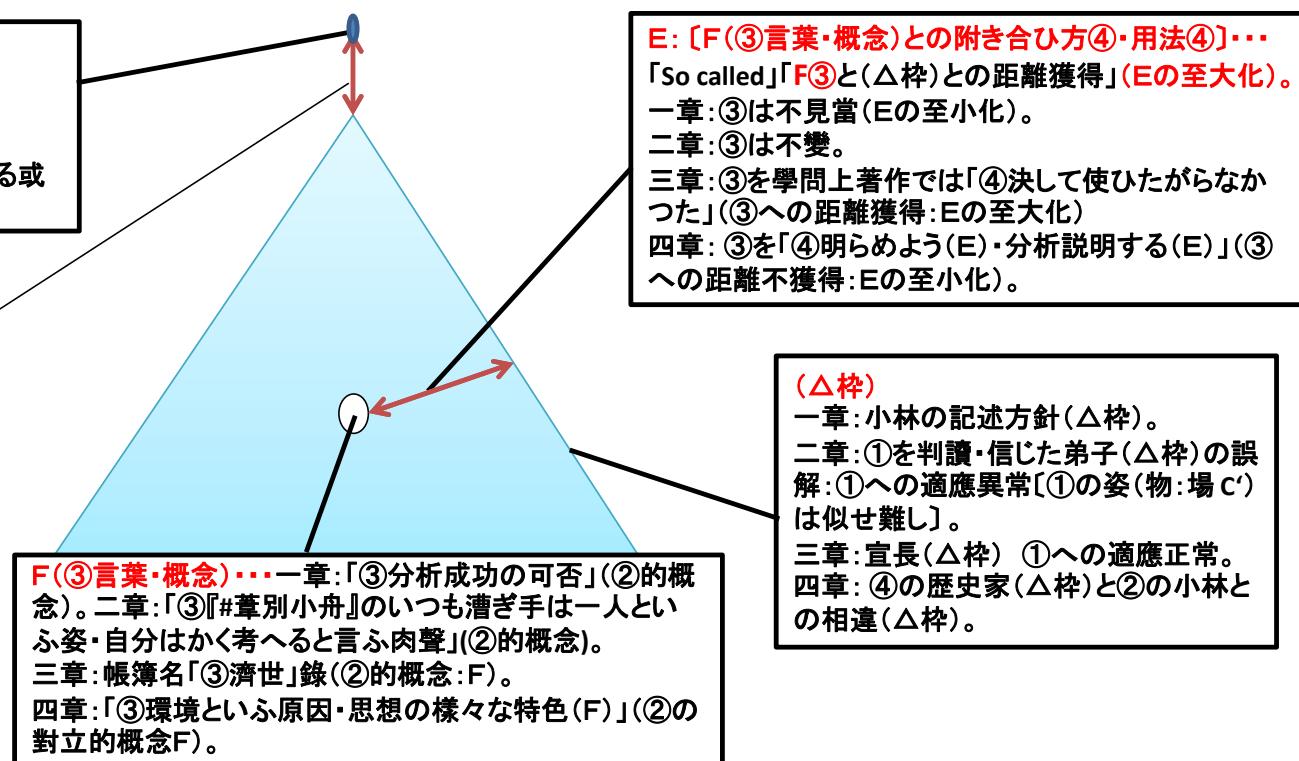


小林秀雄著『本居宣長』:各章主題の「關係論」的纏め

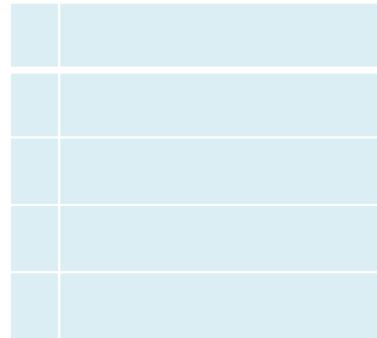
一章	①宣長の謎(物:場C')⇒からの関係:「②分析しにくい感情が動搖する(D1の至小化)」(①への愛・信(D1の至大化)を基盤)⇒「③分析成功の可否」(②的概念)⇒③は不見當(Eの至小化)⇒小林の記述方針(△枠)。
二章	①宣長(物:場C')⇒からの関係:①の「②學問・思想」⇒「③『葦別小舟』のいつも漕ぎ手は一人といふ姿・自分はかく考へると言ふ肉聲」(②的概念)⇒①の③は不變⇒①を判讀・信じた弟子(△枠)の誤解:①への適應異常[①の姿(物:場 C')は似せ難し]。
三章	①學者生活(物:場 C')⇒からの関係:①を終生支へた(D1の至大化)「②醫業(D1)」⇒帳簿名「③濟世」錄(②的概念:F)⇒③を學問上著作では「④決して使ひたがらなかつた」(③への距離獲得:Eの至大化)⇒宣長(△枠):①への適應正常。
四章	①『宣長の日記(物:場 C')の裡に深く隠れてゐる或るもの(物:場 C')』⇒からの関係:①の「②言ひ難い魅力を直知。何とか解きほぐしてみたい」(D1の至大化)⇒「③環境といふ原因・思想の様々な特色(F)」(②の對立的概念F)⇒E:③を「④明らめよう(E)・分析説明する(E)」(③への距離不獲得:Eの至小化)⇒④の歴史家(△枠)と②の小林との相違(△枠)。

①(物:場 C')
 一章:①宣長の謎(物:場)。
 二章:①宣長(物:場)。①の姿(物:場 C')。
 三章:①學者生活(物:場 C')。
 四章:①『宣長の日記(物:場 C')の裡に深く隠れてゐる或るもの(物:場 C')』。

②	からの関係②(D1の至大化)
一章	「②分析しにくい感情が動搖する」(D1の至小化):(①への愛・信を基盤)。
二章	①の「②學問・思想」(D1の至大化)。
三章	①を終生支へた(D1の至大化)「②醫業(D1)」。
四章	①の「②言ひ難い魅力を直知。何とか解きほぐしてみたい」(D1の至大化)。



②	からの關係②(D1の至大化)
一章	「②分析しにくい感情が動搖する」(D1の至小化) (①への愛・信を基盤)。
二章	①の「②學問・思想」(D1の至大化)。
三章	
四章	



一章小林の記述方針:二
章:
三章:四章